

番号	4	平成30年度公共事業再評価調書			担当課名 道路整備課	
事業名	道路改築事業			事業主体	静岡県	
箇所名	ごてんば 一般国道469号 御殿場バイパス			関係市町村	御殿場市	
事業採択年度	平成 26 年度	計画期間	平成26年度 ~ 平成39年度			
用地着手年度	平成 28 年度	工事着手年度	平成 28 年度			
再評価理由※	事業採択 (H26) 後 5 年間に経過した時点で継続中					
全体事業費	百万円 2,700	投資状況 (百万円)	~H28年度 270	H29年度 207	H30年度見込 800	計 1,277
事業概要	<p>(1) 事業目的 一般国道469号 御殿場バイパスは、 ①新東名高速道路（仮称）御殿場 I C 及び国道138号バイパスのアクセス道路 ②物流ルート及び観光ルートの形成 ③安全で円滑な交通の確保 を目的とする。</p> <p>(2) 事業内容 計画概要：延長1,600m 計画幅員 車道13.0m（全幅25.0m） 4車線バイパス</p>					
【視点1】 事業の 必要性	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・新東名高速道路（仮称）御殿場 I C（H32年度予定）や国道138号バイパスの開通 ・板妻南工業団地全区画進出企業決定、農業六次産業施設を誘導する土地利用構想の公表等（H29年度） ・御殿場市の観光交流人口はH25→H28増加傾向、大規模商業施設が宿泊施設建設を含む拡張計画を公表</p> <p>(2) 事業の投資効果 現時点（H30）の分析結果： B/C=1.22 ・総便益（B） 28.45億円 走行時間短縮便益 25.71億円、走行経費減少便益 1.21億円、 交通事故減少便益 1.54億円 ・総費用（C） 23.29億円 建設投資額 24.10億円、維持管理費 0.50億円、用地残存価値 1.31億円</p> <p>本路線は、新東名高速道路（仮称）御殿場 I C や国道138号バイパスへのアクセス道路である。道路整備により、道路ネットワークが強化され、周辺地域への一層の民間投資を喚起し、当該地域の競争力強化に寄与する。</p> <p>(3) 事業の進捗状況 【事業費】 47.2%（H30年度末見込み：1,277百万円/2,700百万円） 【事業量】 0%（H30年度末見込み：0m/1,600m） 【用地面積】 56.2%（H30年度末見込み：26,495m²/47,102m²） 【工事費】 41.0%（H30年度末見込み：655百万円/1,594百万円） 事業は順調に進捗しており平成39年度を完了目標として事業を推進する。</p>					
	評価	継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない				
【視点2】 今後の 事業の進捗 の見込み	<p>優先整備工区（延長900m）の用地取得については、今年度中に取得完了の見込みである。また、残りの用地についても地元との調整も順調に進んでいることから、平成39年度を完了目標に事業を進めるものである。</p>					
	評価	継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない				
【視点3】 新たなコスト 縮減・代替案 立案等 の可能性	<p>事業効果の早期発現を図るため、優先整備工区（延長900m）を暫定2車線で供用させる整備計画を採用。</p>					
対応方針 (案)	<p>(1) 対応方針（案） 本事業を（継続 ・ 見直し後継続 ・ 中止）する。</p> <p>(2) 理由 一般国道469号御殿場バイパスは、平成32年度に新東名高速道路や国道138号バイパスと一体となって開通が予定しており、広域道路網を形成する重要な事業である。事業も順調に進捗していることから、事業継続とする。</p>					

一般国道 469 号 御殿場バイパス

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市局 平成 30 年 2 月)

総括表

I) 総便益 B	28.45 億円
便益=[評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] －[評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	23.29 億円
総費用=[当該計画道路の建設投資額]+[当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	1.22

I) 総便益の算出

①各種費用の H42^{※1}の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	1201.74	288.54	26.97	1517.25
整備した場合 B	1199.89	288.45	26.85	1515.19

便益 A-B	1.85 時間短縮便益	0.09 経費減少便益	0.11 ^{※2} 事故減少便益	65.03
-----------	----------------	----------------	------------------------------	-------

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

②総便益の算出

供用後 50 年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	走行時間短縮 便益(億円)	走行経費減少 便益(億円)	交通事故減少 便益(億円)	総便益 (億円)
総便益(H40~H89)	25.71	1.21	1.54	28.45

…B

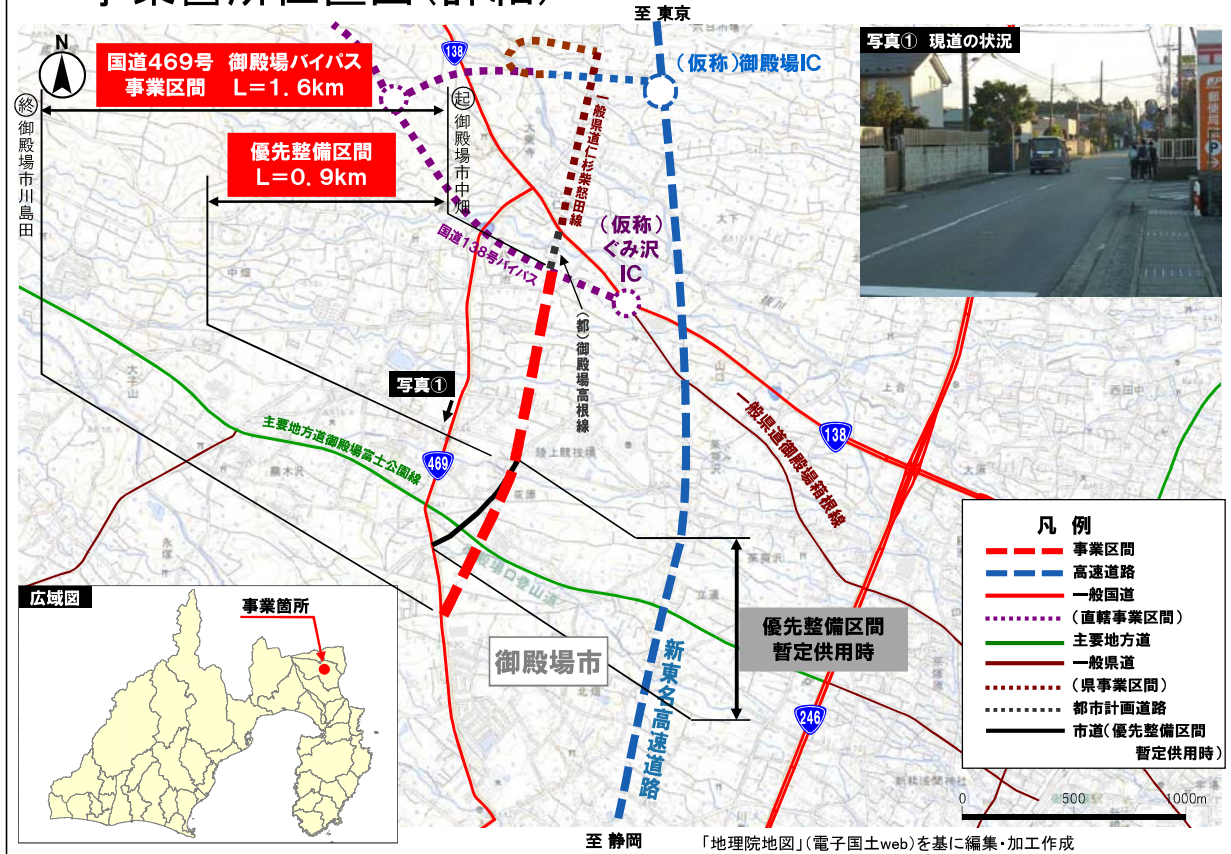
II) 総費用の算出

[総費用]=[建設投資額]+[維持管理費]-[用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費 用(万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
22.79	24.10	300.00	0.50	1.31	23.29

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後 50 年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

事業箇所位置図(詳細)



事業の概要及び目的

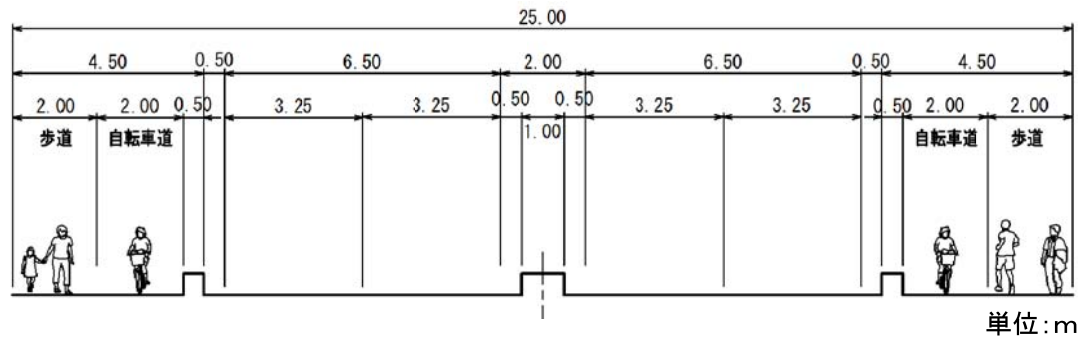
事業概要

- ・ 事業期間 : 平成26年度～平成39年度
- ・ 事業区間延長 : 1,600m
- ・ 道路幅員 : 車道13.0m (全幅25.0m)
- ・ 車線数 : 4車線バイパス
- ・ 全体事業費 : 2,700百万円
- ・ 進捗率 : 47.2%

事業の目的・必要性

本事業は、一般県道仁杉柴怒田線と一体的に整備するものである。新東名高速道路(仮称)御殿場ICおよび国土交通省が実施している国道138号バイパスへのアクセス道路として、高規格幹線道路へのアクセス性の向上を図り、当該地域への一層の民間投資を喚起し、競争力強化に寄与するものである。

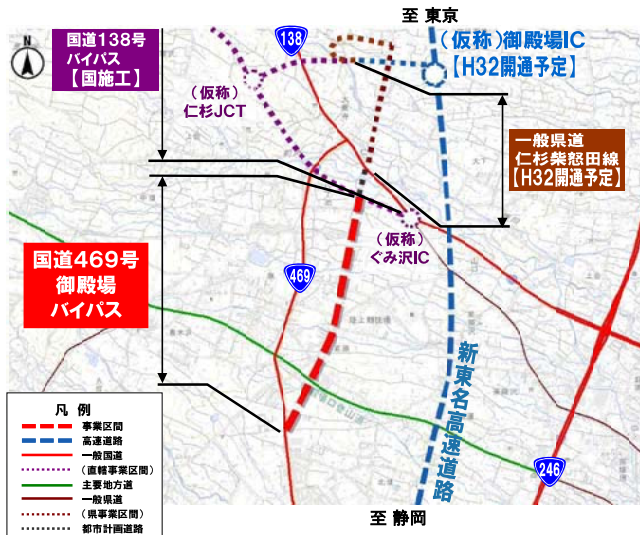
標準横断面図



事業の投資効果(B/Cに現れない効果)

① 広域的な幹線道路ネットワークの形成

- 新東名高速道路(仮称)御殿場ICへのアクセス道路として、当事業のほか国道138号バイパス(国施工)や一般県道仁杉柴怒田線等の整備が進められている。
- 一体的に整備することで幹線道路網の機能が最大限発揮すると期待される。



■ (仮称) 御殿場インターチェンジと周辺ネットワーク完成イメージ

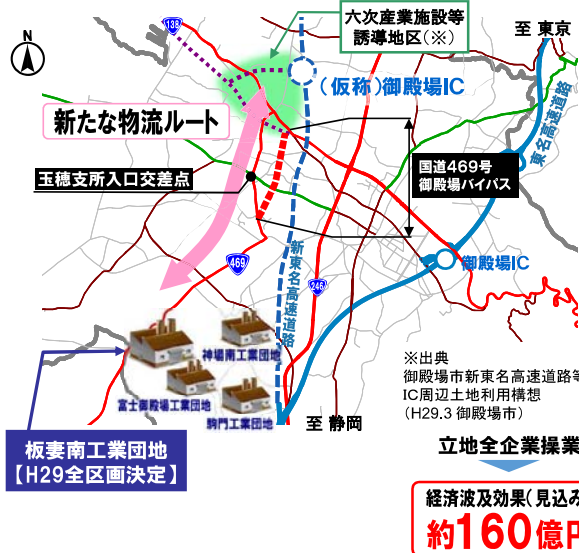


「地理院地図」(電子国土web)を基に編集・加工作成

事業の投資効果(B/Cに現れない効果)

② 産業活性化の支援

- 当該地域では、企業集積や農業活性化の取組等が進められている。
- 新たな工業団地の企業立地による経済効果が見込まれている。
- 新たな物流ルートを形成し、更なる産業の活性化を支援する。

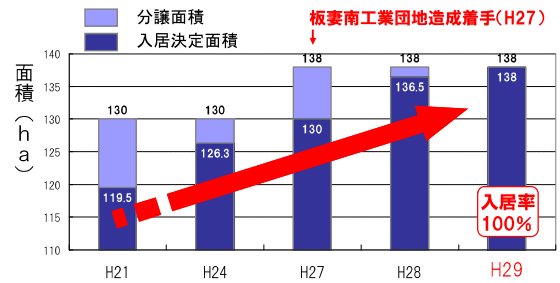


※出典
御殿場市新東名高速道路等IC周辺土地利用構想(H29.3 御殿場市)

立地全企業操業
経済波及効果(見込み)
約160億円

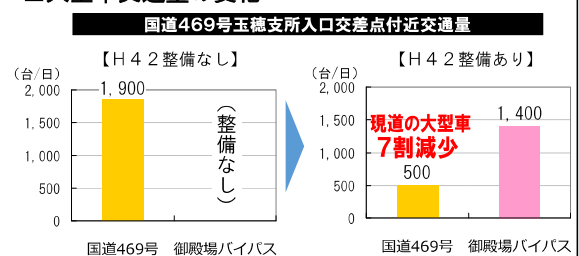
出典: 広報ごてんば(H29.2.20号)

■ 御殿場市の工場団地入居決定面積推移



出典: 御殿場市提供資料

■ 大型車交通量の変化

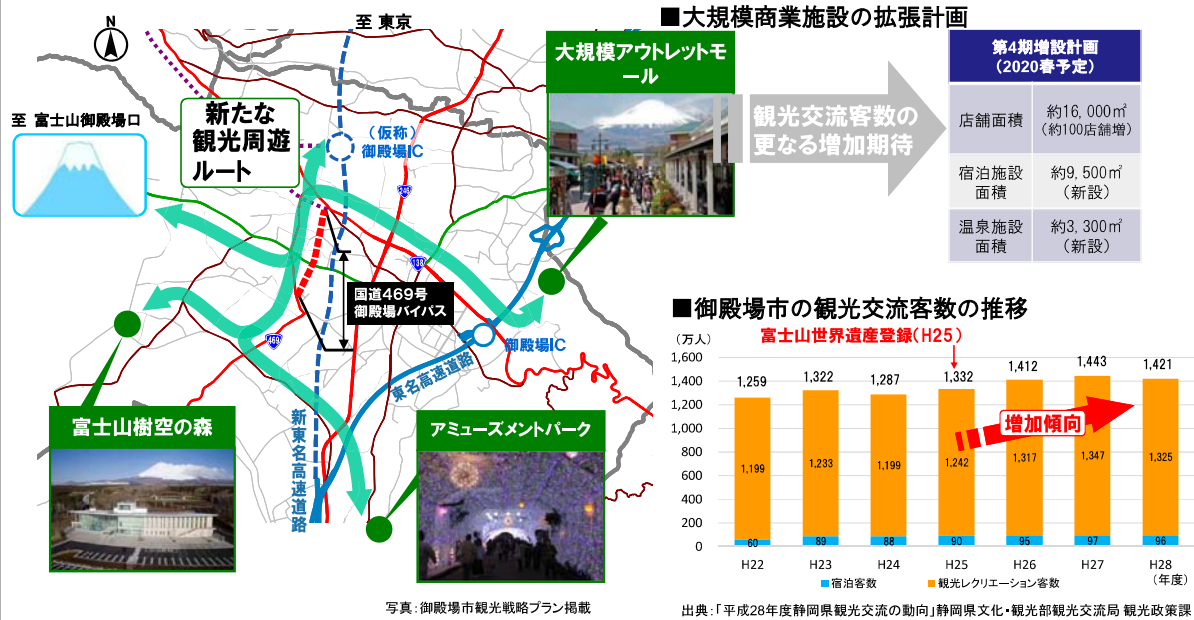


出典: H42将来交通量推計

事業の投資効果(B/Cに現れない効果)

③ 観光振興の支援

- 当該地域では、富士山世界遺産登録を契機に観光交流客数が約1割増加し、大規模商業施設では施設拡張への投資が進行している。
- 新たな観光周遊ルートを形成し、観光振興を支援する。



事業の投資効果(B/Cに現れない効果)

④ 安全で円滑な交通の確保

- 現道沿いには、小・中学校等あり、児童・生徒の通学路として利用されている。
- 現道から通過交通を排除し、安全性を強化する。

■国道469号現道における児童登校時の状況



■交通量の変化

